

授業科目名	発達と老化の理解 I	実施時期	1 学年 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	2 単位 30 時間
担当教員	根塚 明子（臨床心理士、公認心理師）		
授業概要・目的	人間の発達過程の概要を多角的に学ぶ。また、老年期の心理的特徴とその影響について学ぶ。		
到達目標	人間の発達について、基礎的な知識を習得する。また、老年期における様々な変化と生活への影響について理解を深める。		
講 義 内 容			
前 期			
1	人間の成長と発達の基礎的知識（1）		
2	人間の成長と発達の基礎的知識（2）		
3	さまざまな発達理論と発達段階について（1）		
4	さまざまな発達理論と発達段階について（2）		
5	身体的機能の成長と発達		
6	発達にともなう特徴的な疾病や障害（1）		
7	発達にともなう特徴的な疾病や障害（2）		
8	認知と言語の発達		
9	社会性の発達		
10	愛着の発達と道徳判断の発達		
11	老年期の定義と老化について		
12	老年期の発達課題		
13	老化にともなう心理的な変化と生活への影響（1）		
14	老化にともなう心理的な変化と生活への影響（2）		
15	老化にともなう社会的な変化と生活への影響		
授業形態	講義		
評価方法	筆記試験		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第12巻 発達と老化の理解』／中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	発達と老化の理解Ⅱ	実施時期	1 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	2 単位 30 時間
担当教員	前坂 宣明（看護師）・林 博志（医師）		
授業概要・目的	1. 老化による、身体機能の変化及びその特徴に関する基礎的な知識を学習する。 2. 高齢者に多い疾病や症状、生活上の留意点を学習する。		
到達目標	1. 老化による、身体機能の変化及びその特徴に関する基礎的な知識を理解する。 2. 高齢者に多い疾病や症状、生活上の留意点を理解する。		
講 義 内 容			
後 期			
1	高齢者と健康	健康長寿に向けての健康	高齢者の症状・疾患の特徴
2	老化に伴う身体的な変化と生活への影響①	加齢による生理機能の全体的低下	
3	老化に伴う身体的な変化と生活への影響②	身体的機能の低下と日常生活への影響	
4	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	骨格系・筋系①	
5	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	骨格系・筋系②	
6	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	骨格系・筋系③	
7	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系	
8	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	皮膚・感覚系	
9	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	循環器系	
10	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	呼吸器系	
11	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	消化器系	
12	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	腎・泌尿器系	
13	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	内分泌・代謝系 歯・口腔疾患	
14	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	悪性新生物・感染症・精神疾患・その他	
15	保健医療職との連携		
授業形態	講義		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況		
テキスト			
参考図書			

授業科目名	認知症の理解 I	実施時期	1 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	中嶋 恭子 (介護福祉士)・小林 寿夫 (医師)・堀田 満 (看護師)		
授業概要・目的	認知症に関する基礎知識を学び、認知症の人に関わる基本的姿勢について考え、習得する。		
到達目標	1. 認知症の基礎知識を習得する。 2. 認知症の人への基本的な関わり方・介護の視点を習得する。		
講 義 内 容			
後 期			
1	認知症を取り巻く状況	これまでー今ーこれから	①
2	認知症を取り巻く状況	これまでー今ーこれから	②
3	認知症を取り巻く状況	ー認知症ケアの理念と視点ー	
4	認知症の基礎的理解①		
5	認知症の基礎的理解②		
6	認知症の症状・診断・治療・予防①		
7	認知症の症状・診断・治療・予防②		
8	認知症の症状・診断・治療・予防③		
9	若年性認知症、当事者の視点から見えるもの	ー本人の思いを尊重したサポート方法①ー	
10	当事者の視点から見えるもの	ー本人の思いを尊重したサポート方法②ー	
11	認知症ケアの実際 I	ー パーソン・センタード・ケア① ー	
12	認知症ケアの実際 I	ー パーソン・センタード・ケア② ー	
13	認知症ケアの実際 I	ー 特性を理解するためのアセスメント① ー	
14	認知症ケアの実際 I	ー 特性を理解するためのアセスメント② ー	
15	認知症ケアの実際 I	ー コミュニケーション ー	
授業形態	講義		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況等		
テキスト			
参考図書			

授業科目名	認知症の理解Ⅱ	実施時期	2 学年 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	2 単位 30 時間
担当教員	中嶋 恭子 (介護福祉士)・原 伸広 (認知症介護指導者養成研修終了) 阪本 彩佳 (作業療法士)・小澤 光子 (作業療法士) 中山 純子 (京都国際音楽療法センター登録音楽療法指導員)		
授業概要・目的	認知症に関する基礎知識を基に、認知症の人だけでなく認知症予防の観点も含めて、様々なアプローチ方法があることを学び実践に繋げていく。また、地域で生活するための支援制度や環境づくりについて学び、活用方法を習得する。		
到達目標	1. 認知症の人への対応方法として、様々なアプローチ方法を考えることができる。 2. 地域で生活することを踏まえた上での、本人・家族を支援する方法を考えることができる。		
講 義 内 容			
前 期			
1	認知症ケアの実際Ⅱ	－ 生活支援の方法	－
2	認知症ケアの実際Ⅱ	－ BPSD への対応方法	－
3	認知症ケアの実際Ⅱ	－様々なアプローチ (1)	－ 様々な種類
4	認知症ケアの実際Ⅱ	－様々なアプローチ (2)	－ 園芸療法
5	認知症ケアの実際Ⅱ	－様々なアプローチ (3)	－ 音楽療法、回想法
6	認知症ケアの実際Ⅱ	－様々なアプローチ (4)	－ 音楽療法の実際①
7	認知症ケアの実際Ⅱ	－様々なアプローチ (5)	－ 音楽療法の実際②
8	認知症ケアの実際Ⅱ	－様々なアプローチ (6)	－ 音楽療法の実際③
9	認知症ケアの実際Ⅱ	－様々なアプローチ (7)	－ 音楽療法の実際④
10	認知症ケアの実際Ⅱ	－終末期・環境づくり	－
11	認知症の予防		
12	介護者支援	－家族への支援－	
13	介護者支援	－介護福祉職への支援－	
14	認知症の人の地域生活支援	－制度、サービス、機関、地域づくり	
15	認知症の人の地域生活支援	－多職種連携と協働－	
授業形態	講義		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況等		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第13巻 認知症の理解』／中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	障害の理解	実施時期	1 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	2 単位 30 時間
担当教員	前坂 宣明（看護師）・根塚 明子（臨床心理士、公認心理師） 相山 馨（大学教授、介護福祉士、社会福祉士） 吉波 美穂子（作業療法士）・高崎 信弘（作業療法士）		
授業概要・目的	1. 障がい者の心理や身体的機能、社会的側面に関する基礎的な知識を学習する。 2. 障がい者の生活を理解し、家族や地域を含めた支援方法を学習する。		
到達目標	1. 障がい者の心理や身体的機能、社会的側面に関する基礎的な知識を理解する。 2. 障がい者の生活を理解し、家族や地域を含めた支援方法を理解する。		
講 義 内 容			
後 期			
1	障害の概念 障害のある人の心理的影響		
2	障害者福祉の基本理念 障害者福祉の基本理念 障害者福祉に関する制度・介護保険		
3	視覚障害 聴覚障害		
4	言語障害 重複障害		
5	肢体不自由（運動機能障害）		
6	内部障害（心臓機能障害 腎臓機能障害）		
7	内部障害（呼吸器障害 膀胱・直腸機能障害）		
8	内部障害（小腸機能障害 H I V）		
9	内部障害（肝臓機能障害）		
10	精神障害のある人の生活		
11	難病 高次脳機能障害 重症心身障害		
12	発達障害 知的障害		
13	障害のある人に対する介護		
14	連携と協働		
15	家族への支援		
授業形態	講義		
評価方法	筆記試験、課題レポート		
テキスト			
参考図書			

授業科目名	障害とリハビリテーション	実施時期	1 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間	2 単位 30 時間
担当教員	徳田 裕 (理学療法士)・吉波 美穂子 (作業療法士)		
授業概要・目的	リハビリテーションの視点から対象者理解と生活機能の障害を ICF の考え方 に従って理解し、障害のある人の生活と障害内容に応じた支援について学習す る。		
到達目標	1. リハビリテーションの視点から対象者理解と生活機能の障害を理解する。 2. ICF の考え方に従って理解し、障害のある人の生活と障害内容に応じた支援 について理解する。		
講 義 内 容			
後 期			
1	【総論】	対象者理解とリハビリテーション、介護とリハビリテーション	
2		障害の構造理解 (ICF) 背景因子と機能障害、活動制限、参加制約	
3	【各論】	骨、関節機能障害とその対応	
4		筋機能障害とその対応	
5		神経機能障害とその対応	
6		内部機能障害 (呼吸、循環、代謝) とその対応	
7		摂食、嚥下障害とその対応	
8		精神、心理機能障害とその対応	
9		高次脳機能障害とその対応	
10		活動と廃用症候群、介護予防	
11		起居、移乗動作の障害とリハビリテーション介護	
12		移動動作の障害 (歩行、車いす動作) とリハビリテーション介護	
13		食事、排泄動作の障害とリハビリテーション介護	
14		更衣、整容、入浴動作の障害とリハビリテーション介護	
15		生活関連動作 (IADL) の障害とリハビリテーション介護	
授業形態	講義		
評価方法	筆記試験		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第 14 巻 障害の理解』 / 中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	こころの理解	実施時期	1 学年 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	2 単位 30 時間
担当教員	根塚 明子（臨床心理士、公認心理師）		
授業概要・目的	心理学という学問をとおして人間を深く理解し、その知識を他者理解のための学びへとつなげることを目的とする。		
到達目標	心理学についての基本的な知識を身につけ、介護実践に必要な観察力や判断力に活かす能力を習得する。		
講 義 内 容			
前 期			
1	人間の心とは何か		
2	人間の発達		
3	人間の感覚と知覚		
4	人間の欲求		
5	人間の脳と心		
6	認知のしくみ		
7	パーソナリティ理論		
8	フラストレーションと適応		
9	学習のしくみ		
10	記憶のしくみ		
11	思考のしくみ		
12	感情のしくみ		
13	動機づけのしくみ		
14	社会心理学による人間の特性		
15	心をとらえる様々な理論モデル		
授業形態	講義		
評価方法	筆記試験、課題レポート		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第11巻 こころとからだのくみ』 / 中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	からだの構造と機能	実施時期	1 学年 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	2 単位 30 時間
担当教員	前坂 宣明 (看護師)		
授業概要・目的	1. 人体の構造と機能について学習する。 2. 介護技術の根拠に必要な医学的基礎知識を学習する。		
到達目標	1. 人体の構造と機能について理解する。 2. 介護技術の根拠に必要な医学的基礎知識を理解する。		
講 義 内 容			
前 期			
1	「健康」とは何か 健康の定義 「健康」づくり 人はなぜ病気になるのか		
2	からだのしくみを理解する①細胞と組織 身体各部の名称		
3	からだのしくみを理解する②骨格・関節系		
4	からだのしくみを理解する③筋系		
5	からだのしくみを理解する④脳・神経系		
6	からだのしくみを理解する⑤神経系のはたらき		
7	からだのしくみを理解する⑥感覚器系・皮膚		
8	からだのしくみを理解する⑦呼吸器系		
9	からだのしくみを理解する⑧循環器系		
10	からだのしくみを理解する⑨消化器系		
11	からだのしくみを理解する⑩泌尿器系		
12	からだのしくみを理解する⑪生殖器系		
13	からだのしくみを理解する⑫内分泌系		
14	からだのしくみを理解する⑬血液・体液・リンパ		
15	関連する役割、および薬の知識		
授業形態	講義		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況		
テキスト			
参考図書			

授業科目名	生活場面とからだのしくみ	実施時期	1 学年 通年
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	4 単位 30 時間/60 時間
担当教員	前坂 宣明（看護師）・中嶋 恭子（介護福祉士）		
授業概要・目的	1. 生活支援技術の根拠となる人体や動きのしくみについて学習し、心身機能の低下や変化が及ぼす影響について学習する。 2. 他職種連携における観察のポイントについて学習する。		
到達目標	1. 移動・身じたく・食事における生活支援技術の根拠となる人体や動きのしくみについて学習し、心身機能の低下や変化が及ぼす影響について理解する。 2. 移動・身じたく・食事における、他職種連携における観察のポイントについて理解する。		
講 義 内 容			
前 期			
1	移動のしくみ① -なぜ、移動をするのか・基本的な姿勢・ボディメカニクス-		
2	移動のしくみ② -移動に関連したところとからだのしくみ-		
3	移動のしくみ③ -精神機能の低下が移動に及ぼす影響-		
4	移動のしくみ④ -身体機能の低下が移動に及ぼす影響-		
5	移動のしくみ⑤ -変化の気づきと対応・観察ポイント-		
6	移動のしくみ⑥ -変化の気づきと対応・医療職との連携ポイント-		
7	身じたくのしくみ① -なぜ、身じたくの意義-		
8	身じたくのしくみ② -身じたくに関連したからだのしくみ-		
9	身じたくのしくみ③ -心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響（老化・病気・障害による機能低下）-		
10	身じたくのしくみ④ -心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響（老化・病気・障害による機能低下）-		
11	身じたくのしくみ⑤ -変化の気づきと対応・身じたくにおける観察と医療職との連携-		
12	食事のしくみ① -食事の意義・心身のしくみ-		
13	食事のしくみ② -心身の機能低下が食事に及ぼす影響（老化・病気）-		
14	食事のしくみ③ -心身の機能低下が食事に及ぼす影響（障害による機能低下）-		
15	食事のしくみ④ -変化の気づきと対応・食事での観察・医療職との連携のポイント-		
授業形態	講義		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況等		
テキスト			
参考図書			

授業科目名	生活場面とからだのしくみ	実施時期	1 学年 通年
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	4 単位 30 時間/60 時間
担当教員	前坂 宣明 (看護師)・中嶋 恭子 (介護福祉士)		
授業概要・目的	1. 生活支援技術の根拠となる人体や動きのしくみについて学習し、心身機能の低下や変化が及ぼす影響について学習する。 2. 他職種連携における観察のポイントについて学習する。		
到達目標	1. 入浴・排泄・睡眠・終末期における生活支援技術の根拠となる人体や動きのしくみについて学習し、心身機能の低下や変化が及ぼす影響について理解する。 2. 入浴・排泄・睡眠・終末期における、他職種連携における観察のポイントについて理解する。		
講 義 内 容			
後 期			
1	入浴のしくみ① -なぜ、入浴・清潔保持を行うのか・こころのしくみ-		
2	入浴のしくみ② -入浴・清潔保持に関連したからだのしくみ-		
3	入浴のしくみ③ -心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 (老化・病気・障害による機能低下) -		
4	入浴のしくみ④ -変化の気づきと対応・入浴、清潔保持での観察、医療職との連携のポイント-		
5	排泄のしくみ① -尿排出のしくみ-		
6	排泄のしくみ② -便排出のしくみ-		
7	排泄のしくみ③ -心身の機能低下が排泄に及ぼす影響-		
8	排泄のしくみ④ -変化の気づきと対応-		
9	睡眠のしくみ① -なぜ、睡眠が必要なのか・こころのしくみ-		
10	睡眠のしくみ② -睡眠に関連したからだのしくみ-		
11	睡眠のしくみ③ -心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響 (老化・病気・障害による機能低下) - -変化の気づきと対応・睡眠での観察、医療職との連携のポイント-		
12	人生の最終段階① -人生の最終段階に関する「死」のとらえ方-		
13	人生の最終段階② -「死」に対するこころの理解-		
14	人生の最終段階③ -終末期から危篤状態、死後のからだの理解-		
15	人生の最終段階④ -終末期における医療職との連携-		
授業形態	講義		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況等		
テキスト			
参考図書			